

ちくさんスナップショット

平成 25 年 9 月 第 28 号 株式会社富士飼料

【仕事のおさえどころ】

エサ作り（*AMR* 製造）を行うときに、いつも「集中力」を意識しています。原料の投入（入れすぎ、入れ忘れ）加水のタイミング、リフトの運転等、何か考え事をしていたり、うっかりしているとミスが生じます。

それと同時に、使う時間も大事です。一説によると人間の集中力の持続する時間は 30 分～60 分とのこと。製造中、ずっと集中するには限界があります。重要な場面、要点をしっかりと把握することも必要になってきます。

これはスポーツの世界、車の運転など、様々な事にも当てはまることだと思います。要はメリハリのきいた時間の使い方が、効率の良い仕事につながるのだと思います。【養牛担当：佐藤研治】

10-12 月配飼価格動向

10-12 月渡しの配飼価格は現時点(8/29)では「値下げ」となる見込みです。据え置きでも飼料安定基金の補てんが 2,700 円予定されています。補てん原資枯渇の状況を考えると、最低でも 2,700 円の値下げが必要とされています。それにより当該補てん金が 0 円となります。コーン価格は大豊作期待により下落していますが、大豆価格が思うように下がらず、為替事情と相まって 1,000～2,000 円前後の検討となっています。

13 年度の都府県の生乳生産コスト 6.2%上昇—流通飼料費が高騰

飼料の高騰が続いています。13 年度の都府県における生乳生産コストは、円安の進行、流通飼料費の高騰により 12 年度に比べて 6.2%上昇していると推計されています。（一般社団法人 *J* ミルク公表）

推計によると、都府県の全算入生産費は、搾乳牛 1 頭当たり 88 万 6 千円。そのうち、流通飼料費は 43 万 2 千円で、全算入生産費に占める割合は 48.7%と約半分を占めています。9 年前の 04 年度は流通飼料費が占める割合は約 4 割でした。現在は円安の進行や輸入粗飼料価格の高止まりを背景に、流通飼料費がさらに経営を圧迫。04 年度と比べると、21.5%も上昇しています。

弊社といたしましては、各メーカーと協力のもと、飼料体系、生産コストの見直し、飼料設計などのご相談もお受けいたします。また、生産者様目線での仕事を心掛け、提案していきたいと思っております。【宮城県南養牛担当：佐藤研治】

牛用飼料『リアルシリーズ』販売好調！

中部飼料から牛用飼料『リアルシリーズ』が先日販売されて好評です。

スターターから育成までステージ毎の製品を用意しております。ビタミン類の強化やペプチドミネラルの採用により子牛の成長をサポート出来る設計になっています。しかも高タンパクなので子牛の腹作り、高増体に適した商品ではないでしょうか。

あのロングセラーになっている『カーフマンナ』を意識して作った商品との事でかなり期待されています。詳しい商品内容の説明は担当の営業まで！お待ちしております！！【宮城県北養牛担当：斎藤勉】



若鶏会の「たまごキャンペーン」イベントは厚焼玉子・煮卵・パック卵で大盛況！たまごの美味しさをアピールできました！